

マガレイの資源状況

福島県水産試験場 水産資源部
平成18年度事業報告書

1 部門名

水産業－資源管理－マガレイ
分類コード 19-04-43000000

2 担当者

山廻邊昭文

3 要旨

沿岸漁業の重要な漁獲対象種であるマガレイの漁獲量は、平成16、17年と年間1,000トン以上の漁獲が続いた。しかし、過去には、平成13年に400トンを下回るなど、漁獲量変動が大きい魚種であり、その要因は、資源加入量の変動によるとされる。平成17年の全長組成調査結果から、平成16年生まれの資源水準が高いとみられたことから、平成18年の底びき網盛漁期である9～12月に年齢構成を調査し、現在の資源状況について明らかにした。

- (1) 平成18年の年間漁獲量は1,417トンと、至近10年間で最高を記録した。
- (2) 平成18年9～12月の底びき網水揚物は全長18～25cmのものが主体であり、全長17～21cmの小型魚が主体だった平成17年の組成とは異なり、中型魚主体の組成であった。
- (3) 底びき網によるマガレイの漁獲量の約9割を占める、久之浜、相馬原釜の水揚物の年齢組成を調べた結果、年齢査定した標本は、相馬原釜でみられた6歳の雌1尾を除いて、すべて4歳以下であった。2市場に水揚げされたマガレイの年齢構成から、両市場における漁獲尾数、漁獲量のおよそ80%を平成16年生まれの2歳魚が占めており、平成16年生まれの資源は高い水準にあると考えられた。平成19年に全長20～25cmでの漁獲が期待される平成17年生まれは、漁獲尾数の15%程度であった。
- (4) 2市場の水揚物全長組成に大きな違いは見られなかったが、1、2歳魚の漁獲割合は、相馬原釜では、それぞれ5%、89%であったのに対し、久之浜では47%、43%と、2市場水揚物の資源構成が異なり、久之浜の水揚物中には、17年生まれのまとまった漁獲加入が認められた。
- (5) 2市場で得た標本には、年齢別の全長階級に差がみられた。4歳魚の雌を除いて、久之浜で相馬原釜より大型のものがみられ、特に、1歳魚は、相馬原釜では雄20cm、雌19cmまでであったのに対して、久之浜では雄23cm、雌26cmまでみられ、2市場の年齢別全長組成には、明らかな違いがみられた。
- (6) 2市場の標本は漁場の位置が異なり、相馬原釜は仙台湾で、久之浜は県中部(富岡町)沖合(水深は100m前後で同様)であることから、両者の全長階級の差は、海域間の成長差によることが考えられた。

4 その他の資料等

なし